

生涯にわたり歯と口の健康を 保持増進できる草牟田っ子の育成

～学校・家庭・地域との連携を通して～

鹿児島市立草牟田小学校
養護教諭 古川 舞

1 はじめに

本校は、鹿児島市の中央部に位置し、児童数481人、特別支援学級4学級を含む19学級の学校である。「自ら学び、考え、行動できる心豊かでたくましい草牟田っ子の育成」を学校教育目標に掲げ、学校・家庭・地域が連携し、児童の健全育成に努めている。

2 児童の実態

歯科健康診断の結果、令和4年度の本校の未処置歯のある者の割合は14.6%であり、全国平均(18.4%)と比較して低い割合となっている。しかし、歯肉の状態2の割合が3.1%と全国平均(2.0%)よりも高く、本校の課題の一つとして挙げられる。

また、未処置歯のある者の割合は低い傾向にある一方、令和3年度の歯科受診率は57.4%となっており、未処置歯のあった家庭の治療への意識が低い実態がある。このことから、家庭による歯と口の健康への意識の差が大きい様子が伺える。

| 未処置歯 | | R2年度 | R3年度 | R4年度 |
|------|-------|-------|-------|-------|
| | 保有率 | 14.1% | 12.7% | 14.6% |
| 受診率 | 70.0% | 57.4% | — | |

3 テーマ設定の理由

生涯にわたって歯と口の健康を保持増進していくためには、児童自身が自分の体・健康に関心を持ち、将来自分で管理していくための自己管理能力を育む教育が必要となる。

また、習慣化を図るためには家庭の協力が重要であり、児童への指導と同時に家庭への啓発を充実させるための手立てを講じる必要があると考える。

そこで、学校保健活動に協力的な学校歯科医の指導の下、学校・家庭・地域と連携した取組

を充実させることを目指して本テーマを設定した。

4 取組の実際

(1) 歯科健康診断時の取組

ア 健康相談の実施

事前に保護者に歯と口について気になることを記入してもらい、検診時に学校歯科医が相談への指導事項を記入し、検診後に保護者に返している。

イ 歯科健康診断後の啓発

(ア) 歯科健康診断結果のお知らせ

(イ) 歯みがきのポイント・歯科医院マップ

(ウ) 歯列・咬合「2」を周知する便りの発行

ウ 受診状況調査の実施(11月)

受診報告のない家庭を対象に、受診状況の確認や受診計画を立てる機会をつくり、治療への意欲を高めている。

(2) 学級活動の取組

ア ティームティーチング指導、指導案の作成や教材教具の整備

担任と養護教諭によるティームティーチングによる指導では、4年生の「むし歯予防」で、むし歯や歯肉炎を予防するための歯みがきの方法の指導、6年生の「歯肉炎の予防」で、歯肉の観察やデンタルフロスの使い方について具体的な指導を行った。

イ 全国小学生歯みがき大会への参加(5年)



[ティームティーチングによる授業]

(3) 掲示板の活用

ア 歯と口の健康ポスター・標語

イ 歯と口の健康に関する掲示

ウ むし歯の地図・治療状況

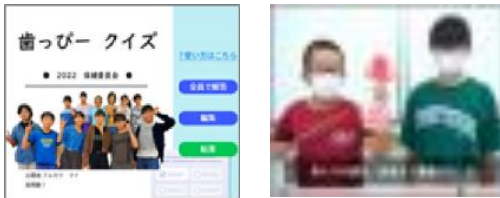
歯科健康診断の結果から、各学年のむし歯の多い歯や治療状況を通年掲示し、随時更新して意欲を高めている。



[歯の健康に関する掲示]

(4) 児童保健委員会の取組

- ア 長期休業中の歯みがきカレンダー作成
- イ タブレットを活用したポスター作成
- ウ タブレットでのクイズと動画作成
「歯っぴークイズ」を作成し、児童にクイズの解説をさせることで、児童目線で分かりやすい内容になるよう工夫している。



[タブレットでのクイズと動画]

(5) 給食室や図書館との連携

- ア かみかみ献立 (毎月8日)
噛み応えのある献立を取り入れ、給食時の校内放送で説明を行っている。
- イ 歯に関する本のコーナーの設置
11月8日の「いい歯の日」に合わせ、歯に関する本のコーナーを図書館に設置し、児童の関心や意欲を高めている。



[歯に関する本のコーナー]

(6) 家庭・地域との連携

- ア 歯科学院との連携
1年生「歯の王さまを守ろう」、3年生「むし歯を防ごう」というテーマで歯科学院と連携し、専門的に学ぶ学生による指導を計画している。
- イ 歯科医院マップの作成
PTA保体部が中心となり、校区内外に

ある歯科医院の場所と診療時間をまとめ、受診が必要な児童に配布している。



[歯科医院マップ]

ウ 学校保健委員会

本校の歯科保健に係る実態や課題を伝え、学校歯科医からの指導をいただいている。

5 成果と課題

(1) 成果

- 歯と口の健康への取組を継続してきたことで、未処置歯のある者の割合は減少傾向にある。
- 楽しく学べる工夫を児童と共に考えるとともに、給食室や図書館などとも連携して取り組むことで、様々な機会を通して歯と口の健康についての意識を高めることができた。
- PTA保体部や学校歯科医、関係機関との連携により、児童の実態に即した効果的な指導を行うことができた。

(2) 課題

- 本校の課題である歯肉炎について、学級活動等で指導をしているが、予防には継続した取組が必要であるため、教育課程や年間指導計画の見直しが必要である。
- むし歯予防や治療には家庭の協力が必要不可欠であり、子供の歯と口の健康を共に考える場として、学校保健委員会や健康相談をさらに充実させていく必要がある。

6 おわりに

これまで、児童が興味・関心をもつことができるような保健活動に取り組んできた。今後も児童自身が将来の自分の姿を想像し、よりよく生きるための方法を自己決定し、それを習慣化できるよう家庭や地域と連携しながら取組を継続、発展していきたい。